

三重大学高等教育デザイン・推進機構の各種成果、取組をお伝えします。

目次

○全学共通教育センター

英語特別プログラム集中講義
「英語Ⅱ発展B」を実施しました……1

○全学資格プログラムセンター

全学教職課程におけるガイダンスと
FD/SD、開催について……2

○高等教育開発デザイン・IRセンター

令和4年度全学FDティーチング・ポ
ートフォリオ研修「教育者としての自
身を振り返る・気づく」(9/22開
催)……3

○アドミッションセンター

2022年度アドミッションセンター第2
回FD研修会「大学入学者選抜の好
事例の研究」実施報告……4

発行日

2023年3月9日

編集担当

鄭 漢模

(高等教育デザイン・推進機構 講師)



英語特別プログラム集中講義「英語Ⅱ発展B」の様子

英語特別プログラム集中講義 「英語Ⅱ発展B」を実施しました

英語特別プログラムでは、履修生の実践的な英語力を養成するために、全学共通教育センターが開講する一部の科目について、外国人教員が英語で授業を行っています。その一環として、令和4年9月27日(火)から30日(金)にかけて、リチャーズ・ジョン非常勤講師の指導のもと、英語Ⅱ発展Bの集中講義が行われました。この講義を履修した19名の学生(医学部13名、人文学部3名、生物資源学部2名、工学部1名)は、4日間、英語のみの環境で学修を行いました。授業は、より豊かな語彙力の修得と、議論や発表を行うために必要な実践的な英語力の向上という目的のもと、提示されたテーマについてのグループワークやペアワーク、個人やグループでの発表等の活動を中心に進められました。毎日、異なったテーマが設定され、1日目は文化的アイデンティティ、2日目はカルチャーショック、3日目はコミュニケーション力、4日目はグローバル・シティズンシップが取り上げられました。受講生は、各テーマに関する課題に取り組みながら、それらの内容

に対する理解を深めるとともに、各テーマに関する自己分析を行い、自身の考えをまとめて発表する等、テーマの内容と自分自身のことを引きつけながら考える機会を得ることができました。

受講後に実施した学生対象のアンケートでは、授業全体への高い満足度が示され、英語での学習環境に対する肯定的な評価を得ることができました。具体的には、「英語のみの環境で過ごすことにより、英語力を高めることができた」「英語で会話する際に間違うことを以前より恐れることがなくなった」「他の受講生と英語で議論をすることを通して、自分の考えを英語で表現できるようになった」等、英語力の向上だけでなく、英語で会話をする意欲や姿勢にも効果が見られた様子や、「異なる文化の人と上手くつきあっていく方法が分かった」「この授業で培ったスキルを海外留学に活かしたい」等、今後の英語学習や異文化間コミュニケーションに対する肯定的な姿勢がうかがえるコメントが寄せられました。

コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、本プログラムの海外研修を中止せざるを得ない状況が続いてはいますが、今回のように、一定の期間、英語だけの環境で集中的に学ぶ機会により、語学力の向上のみならず

外国語での会話への姿勢や態度、そして、今後の学習への動機づけをすることができました。

全学共通教育センター

サコラウスキー・ジェシー、下村 智子

全学教職課程におけるガイダンスと FD/SD、開催について

全学資格・プログラムセンターでは、令和4年9月30日(金)に全学教職課程ガイダンスを開催しました。これから教職課程の履修を開始する1年生のみを対象としたガイダンスはオンラインで開催し、87名が参加しました。今後、継続的に学修記録を記す「学びのあしあと」の記入方法について説明を行いました。一方、2～4年生を対象としたガイダンスは、二回に分けて対面で開催し、131名が参加しました。所属の異なる学生で構成されるグループに分かれ、卒業生のインタビュー動画を視聴した後、今後の学びや行動にどのように活かすか等、各自のこれからの学びに関連づけた意見を共有しました。3年ぶりとなった対面形式でのガイダンスでしたが、参加学生は活発に意見交換を行い、後期からの履修開始にあたって、それぞれが目標を設定する良い機会となりました。

なお以上のガイダンスは、いずれも第1回全学教職課程FD/SDとして開催しました。参加者からは、「学びのあしあと」について理解が深まった、学生は教員の視点からも活動に取り組む必要があることを認識した、等の声が寄せられました。

11月26日(水)には13:30より第2回全学教職課程FD/SDを実施し、教職課程・認定制度、「学びのあしあと」の運用と活用、教員採用試験概要と対策の3点について情報共有

等を行いました。33名の教職員が参加し、有意義な企画になりました。12月7日(水) 10:30 からは『新たな「三重県教育ビジョン(仮称)」策定に係る意見交換会』を開催しました。教育学部及び全学教職課程履修者の計17名が参加し、学内教職員も傍聴しました。はじめに、三重県教育委員会事務局から「三重県の教職を目指す学生の皆さんから様々な意見をお聞きしたい」と期待を込めた説明があり、次に「教育を取り巻く社会情勢の変化について」、「教職の魅力を高めるには」、「子どもの自己肯定感を高めるためには」という3つのテーマで学生がグループ活動を行いました。教育実習や教育アシスタントの経験に基づいた全体発表も行われ、非常に有意義な意見交換会となりました。



全学資格プログラムセンター

玉城 政和、下村 智子

令和4年度全学FDティーチング・ポートフォリオ研修 「教育者としての自身を振り返る・気づく」(9/22開催)

2022年度 全学FD
ティーチング・ポートフォリオ研修
「教育者としての自身を振り返る・気づく」

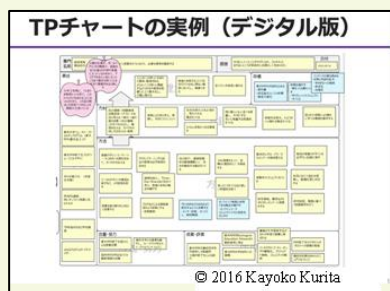
講師 栗田 佳代子 氏

9/22 木
13:30-16:15
Zoomによるオンライン開催

「ティーチング・ポートフォリオ(TP)」は、第1回が、自らの教育活動について振り返り、文書化したものと、その内容を基に作成する根拠資料から構成される文書のことです。教育活動の改善と教育業績の可視化という観点から、近年、重視されています。本FDは、講師のファシリテーションのもと、先生方のTP作成の第一歩となる機会として企画しました。ぜひご参加ください。

13:30～13:35 開会挨拶 伊藤 正明 学長
13:35～13:40 講師紹介 菊田 修一 副機構長
13:40～16:10 研修 栗田 佳代子 先生
16:10～16:15 閉会挨拶 鶴原 清志 機構長

主催：三重大大学 高等教育デザイン・推進機構



9月22日、東京大学大学総合教育研究センター副センター長の栗田佳代子先生をお招きし、全学FDをオンラインで開催いたしました。伊藤正明学長の開会挨拶の後、栗田先生のファシリテーションのもと研修が展開され、30名の教員が参加しました。研修では、自身の教育活動を振り返る「ティーチング・ポートフォリオ・チャート(以下、TPチャート)」の作成を中心に活動を行いました。

まず、今回の研修の目的についての説明があり、TPチャートの作成と見直しを通して、教育活動を俯瞰できる、教育理念に自ら気づいて書ける、教育理念と方針・方法の結びつきを説明できる、長期目標・短期目標を設定できる、という到達目標が明確に示されました。そして、「TPとTPチャート」「TPチャートの実例、具体的な作成手順、研修例」等が説明された上で、実際に参加者一人ひとりがTPチャートを作成しました。

作成にあたっては、大きく3つの段階を辿りました。

- 第1段階：教育に関わる事実情報(基本情報、直近1年以内の教育活動、教育活動における改善内容、教育活動によって得られた成果や学生や第三者からの評価)について記録する。
- 第2段階：教育の「方法」(いつも行なっていること、重要視して用いていること、自分の教育を特徴づける方法等)を振り返り記録する。加えて、なぜそのような方法を用いているのか、理由や願いを「方針」としてあげる。さらに、「方針」であげた事項をグルーピングしながら、その方針を用いている理由について深く考え「理念」とし、その理念を持つに至った個人的なエピソード(影響を受けた出来事や人物等)についても考える。
- 第3段階：これまでに記述したそれぞれの内容に対する根拠資料(エビデンス)があれば記録する。エビデンスが記録できていない部分については、どのよう

なエビデンスが取得できるか検討し、記録する。

各段階は個人で取り組み、各段階の終了後に参加者同士のペアで共有しコメントしあい、お互いの振り返りをさらに深めることを目的としたフィードバックを行いました。

事後アンケートでは19名から回答が得られ、「TP及びTPチャートへの理解は進みましたか」の設問に全員が「はい」と回答しました。また、「自分自身の教育理念を考えたことがなかったので、それを考える良い機会になった。今回のFDで、今後の目標や自分自身の勉強不足な点等がわかったので、今後の教育活動の改善につなげたい。」「多くの教員の教育に対する多様な考え方を知りたいので、そのようなことを議論できるようなFDの開催を期待したい」「自身の授業を振り返ることによって、今後より良い授業をやっていけそうな気がした。また、他学部・他分野の教員と接する機会になり、それぞれの悩みを共有できた点もよかった」等の意見が寄せられました。

自身の教育活動を振り返る方法について体験的に学ぶと同時に、参加された先生方が教育活動や理念について共有・コメントし合うという、FD本来の目的を大いに達成する機会にもなりました。

センターでは、頂いたコメントを参考にしながら、TPチャートを手がかりとした教育改善についての検討を継続し、教育活動についての全学的な議論を今後も展開していけるよう、引き続き取り組んでまいります。ご協力のほど、お願いいたします。

高等教育開発デザイン・IRセンター
長濱 文与



2022年度アドミッションセンター第2回FD研修会 「大学入学者選抜の好事例の研究」実施報告

(1)

https://www.mext.go.jp/content/20220818-mxt_daigakuc02-000005145_2.pdf

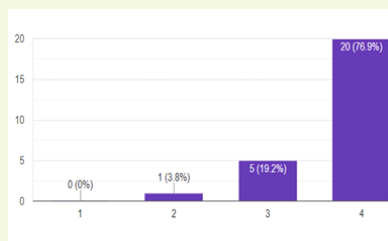


図1 講師の説明に対する満足度（4件法:あてはまらない=1、あてはまる=4）

アドミッションセンターでは、5月19日の第1回アドミッションセンターFD研修会「高校と大学における新学習指導要領への対応と高大接続」の開催に引き続き、11月10日に第2回アドミッションセンターFD研修会「大学入学者選抜の好事例の研究」を開催しました。

今回は、8月18日に文部科学省高等教育局が全国の大学に公表した「令和3年度大学入学者選抜の好事例集」⁽¹⁾に選定された奈良女子大学の総合型選抜「探究力入試『Q』」と入学前教育について、同大学の小川伸彦教授（アドミッションセンター長）と小野寺 香 准教授（アドミッションセンター員）より、オンラインでご講演いただきました。

当日は鶴原理事（教育担当）、田中理事（広報・ブランディング担当）をはじめ、各部署の教職員から37名の参加があり、講演後の質疑応答では多くの質問が寄せられました。実施後のアンケートでは、講師の説明について満足との回答結果は約8割近く（4あてはまる：76.9%）ありました。（図1）さらにアンケートの自由記述では、「単なる優秀な学生の選抜だけでなく、入学後の学生の課題解決が入試によって行えている素晴らしい事例

だと感じた」「1期生の懇親会での様子等、入学者の修学の状況をお聞きできたのが良かったです」「多岐にわたる質問に丁寧にお答え頂いたことが印象に残りました」「質問が多数寄せられたというのは、それぞれの先生方がこのテーマに問題意識を持っておられることを意味していると感じた」といった記述のほかに、質疑の時間が約20分程度と短くなってしまったことから、「質問時間を多くとってはいかがでしょうか？」「時間が限られているので、質疑応答の際、司会側がまず代表質問のような形で大枠を質問し、その後、個別質問を受け付けるようにすると、網羅的に聞けるのではないかと思います」といった提案もいただき、参加者の関心の高さが表れていました。

閉会の挨拶では、藤田副学長（入試・高大連携担当）より、好事例に選定された先進的な取り組みを詳細にご講演いただいた奈良女子大学アドミッションセンターの小川教授と小野寺准教授に感謝の言葉が述べられました。

アドミッションセンター
宮下伊吉

編集後記

三重大学高等教育デザイン・推進機構ニュースレター 第61号をお届けします。お忙しい中、ご寄稿頂きました先生方にお礼を申し上げます。また、編集にご協力頂きました教務チームの中村さんにも感謝致します。

（高等教育開発デザイン・IRセンター 専任講師 鄭漢模）

本ニュースレターに関してご意見・ご感想等がございましたら、下記までお気軽にご連絡ください。

電話：059-231-9392（内線：9392） e-mail: jeonghanmo@hedp.mie-u.ac.jp

過去のニュースレター：<https://www.hedp.mie-u.ac.jp/publications/news-letter.html>